

防災訓練から

わたしの住んでいる地域では、「備えあれば、憂いなし」と、毎年、防災訓練を実施しています。今年から地域の役員をすることになったわたしは、訓練に参加してもらえるかどうか、自分の組の人たちに一軒ずつ聞いて回りました。

その中で、最近引っ越してきたブラジル人のAさんを訪ねた時のことです。

「今度、防災訓練がありますが、参加してもらえますか？」

Aさんは、訓練の案内チラシを少し見てくださいましたが、「ニホンゴ、ヨクワカラナイ。」と応えて、すぐに家の奥のほうに入ってしまったわれました。言葉がわからないから不参加でも仕方がないかと、わたしはあきらめてしまいました。

さて、防災訓練当日、300人以上の住民が参加した大規模な訓練が行われました。

消火訓練、けが人の搬送訓練、応急手当など、大変充実した内容でした。最後に、非常食と、炊き出しのおにぎり、豚汁をいただき、その日の訓練は無事に終わりました。

防災訓練終了後、役員が集まったの反省会が開かれました。

「300人も参加してくれたから大成功だな。」

「参加した人にも、きっと満足してもらえたことだろう。」

などという声が多く聞かれました。役員の一員として責任を果たせたような気持ちになり、わたしはホッとしましたが、反省会が進む中で、次のようなことが話題になりました。

「今回参加した人にはよい訓練になったと思うが、訓練に参加していない人はうまく避難できるのだろうか。」

そのことまで十分思い至らず、少し満足してしまっていたわたしは、本当に災害が起こったときに、誰もが安全に避難できるのだろうかと不安になってきました。

そこで、わたしは、もう一度Aさんを訪ねてみることにしました。

玄関先にAさんがいたので、声をかけました。

「こんにちは、Aさん。」

「ア・・・、コノマエノ・・・」

「イエス、イエス。マイネーム・・・」

わたしは、身振り手振りを交えながら、ゆっくり話をしました。

「ニホン、トモダチ、イナイ。ニホンゴ、ヨクワカラナイ。」

Aさんも大きなジェスチャーで少しずつ応えてくれます。

「わたし、ポルトガル語、ノー。でもまた来たヨ。オーケー？」

わたしが伝えると、しばらくしてAさんが返してくれました。

「？・・・オーケー、オーケー。」

お互いに少し気持ちが通じたようで、表情も少し緩んでいました。

それ以来、Aさんに気軽に声をかけられるようになりました。会話というほどではありませんが、少しずつAさんのことがわかってきたように思います。わたしが言葉の壁と思っていたのは、実は心の壁だったことに気づきました。

人と人がつながり、互いの気持ちが通じ合うために、まずは少しずつ自分自身の心の壁を取り除いていこうと思いました。